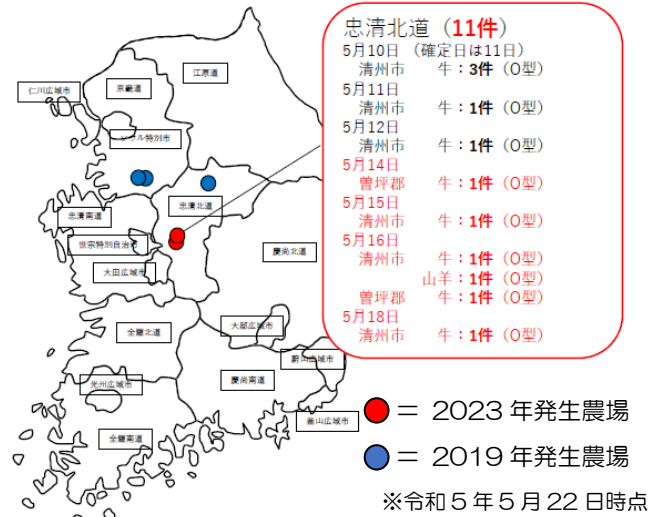


韓国で口蹄疫の発生が確認されています

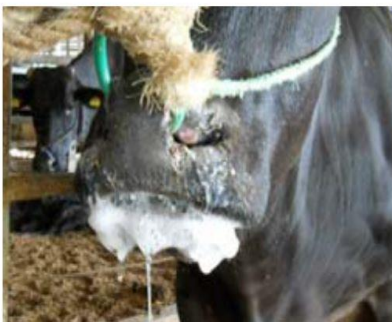
令和5年5月10日、忠清北道清洲市の肉牛（韓牛）を飼養する2農場（約360頭）で口蹄疫が確認されました（平成31年（2019年）以来4年ぶり）。また、5月11日以降も複数の農場で新たに発生が確認され、5月22日時点で11件に拡大しています。

口蹄疫は牛、綿羊、山羊、豚を含むほとんどの偶蹄類に感染する法定伝染病で、致死性は低いです。非常に高い感染力を持っています。原因ウイルスであるピコルナウイルスは環境耐性が高く、自然環境下でも長期生存が可能です。また致死性が低いため症状が表在化しにくく、感染後に免疫を獲得した牛がキャリア化し、持続的にウイルスを排出してしまう問題もあります。

新型コロナウイルスによる規制も緩和され、これから夏季に向けて海外観光客等、人や物の流通増加が予想されます。農家の皆様におかれましては、外部から農場内に疾病を入れないよう、器具及び長靴の洗浄・消毒等、防疫対策をお願いします。



<口蹄疫の症状（牛）>



泡のようなよだれ



舌の水疱



口腔内のびらん

特定症状を発見した場合は、家保へ連絡・通報をお願いします！

口蹄疫は豚（イノシシ）にも感染します！

口蹄疫は牛で話題になることが多いですが、豚への感染対策も重要になります。牛と同様に致死性は低いですが、口蹄疫ウイルスの増幅動物のため注意が必要です。豚は口蹄疫ウイルスと親和性が高く、**感染豚は牛の約100倍～2,000倍の量のウイルスを排出します**。平成22年（2010年）の宮崎県での発生は、豚に感染してしまったために感染拡大が加速したともいわれています。

<口蹄疫の症状（豚）>



鼻の水疱、びらん



蹄冠部のびらん

口蹄疫は非常に伝染力の強い感染症です。実際に2010年の宮崎では、2ヶ月足らずで県全体の3分の1の地域に感染が拡大しています。そのため個々の農場での対策も重要ですが、地域全体での防疫対策が拡大防止のためにはとても重要になります。長靴や作業着の交換、農場出入り時の車両・器具消毒等、防疫対策の徹底をお願いします。

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）	H5N1	ロシア	家きん	令和5年4月30日
口蹄疫	O型	中国	水牛 牛	令和5年3月23日 令和5年4月11日
		韓国	牛（10件）	令和5年5月10日～18日
			山羊	令和5年5月16日

令和5年(2023年)6月1日現在

家保職員から一言



6月に入り気温も上がり始め、湿度も高くなり家畜にとってストレスのかかりやすい時期になります。特に球磨・芦北地域は昼夜の寒暖差が激しいため、畜舎内の温度調節、暑熱・寒冷対策を徹底しましょう。

梅雨明け後は衛生害虫の増加が予想されるため、牛伝染性リンパ腫の対策は今のうちにおきましょう！